

学校企画実施計画書

ジャカルタ日本人学校 富樫 朗

1. 応募するプロジェクト名
学校企画

2. 企画テーマ名称
「米」から広がる学びの輪
ー情報メディアを活用したインドネシアと日本の遠隔地交流学习ー

3. 企画のねらい

ジャカルタ日本人学校は言うまでもなく在外教育施設であり、現地校との交流やネイティブの教師を交えたインドネシア理解の学習を通して、国際理解教育を推進するには絶好の環境にあると言える。現に子供たちは昨年度、各学年のテーマにしたがって、多種多様なインドネシア理解に関わる体験的な学習に主体的に取り組み、インドネシアの文化に大いに触れることができた。

しかしながら、ここで留意すべき点は、「インドネシア理解教育 = 国際理解教育」と安易に捉えてはならないことである。国際理解教育を進めるには、異文化理解と同様に、自国（日本）文化理解に関わる学習も必要不可欠なものとして考え、実践していく必要がある。双方の文化の共通点や相違点に気づき、認め合い、互いに尊重する態度を育てることこそが、真の国際理解教育であると言える。

日本国内の学校の子供たちと交流をすることは、自国（日本）文化理解を進める有効な手段の一つであると言える。直接会うことができなくても、様々な情報メディアを活用しながら、人と人との心が通った交流を進めることで、子供たちの主体的な学びが形成されていく。

他校との交流を進めるに当たっては、子供たちの必要感に応じた継続的な活動が重要であるとする。教師が交流という最終ゴールを大々的に示し、それに向かわせるために、やはり教師が敷いたルールに無理やり乗せたところで、子供たちの主体性など育つはずはない。また、その交流が単発的・イベント的なものであれば、一時的に楽しいだけの無意味な活動になってしまう可能性もある。単発的・イベント的な交流を全て否定する訳ではないが、一方で、交流をもっと身近なものとして捉え、交流校の子供たちを学習パートナーと見なし、お互いに年間を通して継続的に学習を進めていくことも、これからの交流学习の一つのあり方であると思う。

日本とインドネシアの距離を縮めることは不可能である。しかしながら、インターネットを初めとした各種情報メディアが、学校の壁や国境を越えた学習を可能なものにしてくれる。また、電話・手紙・郵便等、従来からある情報伝達手段も、まだまだ有効に使う余地を残している。これら情報メディアの効果的な使い方を学ばせてことも、情報教育という観点で見逃してはならない点である。

以上のような在外教育施設であるという本校の現状、及び交流学习の捉え方等をふまえ、本学校企画プロジェクトの成果目標を次のように定める。

○成果目標

- | |
|---|
| <p>(1) インドネシア及び日本の文化（産業）に目を向け、それらの共通点・相違点を捉え、互いに尊重する態度を育てる。</p> <p>(2) 積極的に他と関わり、共に学び合う力を育てる。</p> <p>(3) 個あるいは集団の課題を明確に持ち、情報メディアを有効に活用しながら、課題を解決していく力を育てる。</p> <p>(4) 学習の成果を、自分なりの方法でまとめ、発信していく力を育てる。</p> |
|---|

4. 企画の概要

(1) 対象

学 年 ジャカルタ日本人学校小学部 5 年生
 教科等 社会科・総合的な学習

(2) 実施内容

ジャカルタ日本人学校の総合的な学習

ジャカルタ日本人学校では、総合的な学習の時間「インドネシア」を教育課程に位置付け、国際理解教育を推進している。この総合的な学習「インドネシア」には、「インドネシア語」及び「インドネシア理解」という二つの側面があり、それぞれの学習を通して、「主体的に学び世界に心を開く児童生徒を育成する」ことを大きなねらいとしている。

第5学年の総合的な学習のテーマは、「インドネシアの産業を知ろう」である。社会科の学習で日本の農業・水産業・工業等の学習を行い、それを発展させてインドネシアの産業について体験的な活動を通して理解させていくことが、5年生としてのねらいである。

米作りの学習をきっかけに

5年生の社会科で1番初めに学習するのは日本の米作りについてである。その学習により子供達は、米の産地である山形県や新潟県を知り、学習パートナーとなる交流校の子供達をより身近に感じると思われる。一方で、インドネシアも米が主食の国であり、本校では毎年5年生が米作りの体験学習を行っている。

「米」という共通点をきっかけに交流が始まり、それを他に広げていき、互いの国の文化の共通点・相違点を捉えさせていきたい。

年間スケジュール

学習活動	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
自己PR	自己紹介カード送付・自己PR								
米作り	日本の米作りを学習		田植え	観察(薬と肥料) 稲刈り・もみ踏み			現地校との交流		
宿泊学習	計画		宿泊学習・まとめ						
JJSフェスティバル	計画		アンクロン演奏			アンクロン制作			
バティック制作	日本の伝統工業を学習					バティック制作			
交流のまとめ	交流のまとめ								

アンクロン 竹製のインドネシアの楽器

バティック ろうけつ染めによる工芸品

各学習活動の具体的内容

学習活動	ねらい	内容
自己PR	○自己紹介を通して、交流校やその子供達の特長・特技を知る。	○自己紹介カードを送り合ったり、ネットミーティングによるテレビ会議を行ったりして、互いに自己紹介を行い、自分達の特技等を紹介し合う。 ○学習パートナーのデータベース化を図る。

米作り	○日本とインドネシアの米作りについて知り、共通点や相違点に気付く。	○社会科の学習で日本の米作りについて学習する。 ○米作りに関わるインドネシア語を学習する。(インドネシア人の教員による指導) ○学校近辺にある田んぼを借りて、現地の学校の子供達と共に、田んぼの持ち主(インドネシア人)の指導のもと、田植え・肥料と薬の散布・稲刈り・もみ踏み等の作業を行う。 ○共に作業した現地校の子供達と調理等をして交友を深める。 ○自分達が行った作業と、日本の米作りについて学習したことを比較したり、日本の交流校の子供達と情報交換したりする。 ○自分達の活動をホームページにまとめる。
宿泊学習 (学年行事)	○茶畑や茶の製造工場を見学したり、茶摘みを体験したりして、インドネシアの農業について知る。	○実行委員会を中心に宿泊学習の計画を立てる。 ○宿泊学習に関わるインドネシア語を学習する。(インドネシア人の教員による指導) ○宿泊学習に行き、茶畑や茶の製造工場を見学したり、茶摘みを体験したりする。 ○自分達の活動をホームページにまとめる。
J J S フェスティバル (学校行事)	○日本やインドネシアの音楽に触れ、ステージで発表することにより、表現する楽しさや、それぞれの音楽のよさに気付く。	○J J S フェスティバルのステージ発表の計画を立てる。 ・アंकロンを使ったインドネシアの音楽と日本の伝統的な音楽を組み合わせたものになるよう考える。 ・交流校の子供達に、ステージ発表のための日本の伝統的な音楽について相談する。 ○練習を行う。必要に応じて交流校の子供達のアドバイスを受ける。 ○J J S フェスティバルで発表する。 ○自分達の活動をホームページにまとめる。
バティック制作	○バティック制作を通して、日本やインドネシアの伝統工芸について知り、そのよさに気付く。	○社会科の学習で日本の伝統工業について学習する。 ○インドネシアの伝統的な手工芸であるバティックを知る。 ○バティックを制作する。 ○日本の伝統的な工芸品について交流校の子供達に質問する。 ○自分達の活動をホームページにまとめる。
交流のまとめ	○年間を通して行ってきた交流学習をまとめる。	○年間を通して行ってきた交流学習のまとめの方法を考え、計画を立てる。 ○計画にしたがってこれまでの活動をまとめる。

留意点

・ 情報交換(各種情報メディアを活用)

子供たちのつづやきや素朴な疑問を大切にしながら、交流を継続的に行っていくためには、交流できる環境を整える必要がある。疑問を持った子供たちが情報を収集したり伝達したりする手段として、次のような情報メディアを活用させる。それぞれのメディアの長所・短所を理解させながら、学習課題や学習の進行状況 に応じて、

子供たちが取捨選択し活用できるよう指導していく。

手紙 電話 FAX 電子メール テレビ会議 ビデオレター DVD CD-ROM
--

・ ホームページ作成

各単元の学習の終末部においてホームページを作成する。これにより、自分達の学習を振り返り、まとめることができると同時に、交流校との情報の共有を図ることができる。

5. 実施体制

(1) 実施体制

校内の体制

ジャカルタ日本人学校5年生を対象に実施し、企画実施担当者を中心として、5年生各担任及びネイティブ(インドネシア人)の教員により指導を行う。

学習パートナー(担当教諭)

山形県東村山郡山辺町立鳥海小学校 5・6年生(東海林新司・新目 巖)

新潟県長岡市立表町小学校 6年生 (篠田賢一・佐々木潤)

新潟県加茂市立加茂南小学校 5年生 (濱井民子)

(2) 実施スケジュール

学習パートナー(日本国内の協力校)決定	4月
各学校のPRと学習パートナーのデータベース化	4月～5月
総合的な学習のカリキュラムに沿った学習	年間
各種情報メディアを活用した情報交換・情報共有	年間
交流のまとめ(共同の作品作り)	1月～

(3) 実施環境

パーソナルコンピュータ

- ・ 電子メールの送受信
- ・ 情報検索
- ・ インターネットによるテレビ会議システムの利用
- ・ ホームページ作成

電話・ファックス

- ・ 学校間の連絡